

「紅葉狩」劇評集

●新富座略評〈摘録〉〔明治20年10月新富座〕

六二連 高須高燕

梅素 薫

〈出典：『六二連 俳優評判記 歌舞伎新報編 上』独立行政法人日本芸術文化振興会、
平成18年6月〉

○三府五港写幻燈○萩露結月影○新曲紅葉狩

中幕に演ぜし紅葉狩の新曲は嘉永二巳酉年八月市村座にて（中村歌右衛門）大坂行きの名
残狂言「詞花紅成盛」二番目大切「余波五色花魁香」五節句所作事の内「重陽
紅葉狩」惟茂（関三十郎）侍女（坂東玉三郎）（中村梅歌）戸隠の鬼女（歌右衛門）にて
演ぜし事が有しかど方今のは少し違ふ処も有升たが詰に黒毛の石橋にて髪洗いまで有て
大趣向なりしが左程上評でも有ましなんだ其後今の（芝翫）も勤めし事が有た様に覺しが
当時は瀬田の童女にて仕られ升た今回（三升）丈のは謡曲の紅葉狩に基付て作られ近頃見
物の眼を驚ろかしてゐる堀越先生の腕前故中々な評判物にて一種の呼物でムリ升た

（市川左団次）○中幕に余吾將軍惟茂役（三升）の演曲物のワキ師を勤る約束の人の様に
て毎度勤められ升が例も大出来し此回の惟茂も衣裳の好み万端申分無人品も備り上評なり
後に鬼女との立廻り烈しくして能変相らず当られ升た

（沢村源之助）○中幕に侍女望月はさしたる事も無併し舞台に立派味が付が最早五身上が
出来升た

（市川升蔵）○紅葉狩に惟茂の臣八内所作事出来されたり師匠のお蔭でかような場にて腕
をふるわれお仕合

（市川猿蔵）○中幕の侍女さしたる事無

（市川金太郎）○中幕に侍女相変らず手踊がムリ升たが身上身上

（市川升若）○中幕に侍女田毎役一通りの出来なり

（中村鶴蔵）○中幕に惟茂の臣鷺沼運平役一寸所作事も有と云役にてお持前の役柄申分無

（中村芝翫）○中幕に戸隠山神の翁能曲なれば間の役と云処所作事も此丈だけの事にて申
分無

（市川団十郎）○中幕の紅葉狩は道具衣装等大立派にて近頃所作事では方今向うに敵無と
云腕前なるに今回は扇の手を十分に入られ実に感伏な物でムリ升たぞ後鬼女に成てから惟
茂との大立廻り烈しくして吉青隈は市川家伝来の由なるが筆数少くして凄味十分にてふし
ぎなり身より光りを放つ電気燈の仕掛も口より火を吹拵えも場中大請黒毛の髪洗いも大奮
発でムリ升た先今回の紅葉狩は評判よく大当りで有升た

第八百四十三号（明治二十年十一月二十三日）～第八百四十六号（明治二十年十二月三日）

●歌舞伎座の紅葉狩〔昭和8年10月歌舞伎座〕

岡鬼太郎

〈出典：『鬼言冗語』岡倉書房、昭和10年4月〉

少し毛色の違ったところで、今度紅葉狩のお話を致しましょう。

竹本、常磐津、長唄の三方掛合と云うのですから、踊を主とした点で所作事であり、又、狂言浄瑠璃でもある此の新歌舞伎十八番の『紅葉狩』は、今の言葉の舞踊劇というのに好く当て嵌まっている訳です。

書卸し当時、九代目団十郎が、振付の花柳壽輔と折合の好くない事があって、此の所作全体の振を、自身で付けたのが、後々まで語り草として残されていますが、流石名人団十郎も、自身が舞台上で巧い踊の見せられる役者であったところから、自分の芸に即して、態々お姫様が二枚扇を使う振付を拵えました。

偕、新富座の其の芝居が開いたのを見て、お姫様ともあろう者が、扇の曲を演るという事があるものか、振付師が付ければ、己でなくともあんな手は付けない、総体には立派な踊だが惜い事だと、花柳が評したのは至言です。二枚扇の使い方は、確に曲でありケレンであり、芸人の踊じみているのであって、それが曲である証拠には、後日撮影した活動写真（歌舞伎座の裏で写したもの）に、二枚の扇の中を過って取落した所が撮れています。生憎なものです。団十郎は、後にこれを公開されるとは思わなかったので、大様に其の儘撮り直しもしなかったのですが、此の国宝的写真はその後何うなりましたか。

こんな次第で、更科姫は何処までも前が優美な赤姫であり、後の鬼になって勢い凄じく荒れるという大役。然し、長い毛を無闇やたらと振って、石橋のような事をするのが能ではありません。近年は長い毛を冠った変化物となると、曲芸の竹沢藤治たちの真似事だと、首の切断れるほどに毛を振り廻して得意がる大抵の役者、それを又喝采する多くの看客、何方も何方、心得違いなものです。

団十郎以来の感心せぬ型の、近頃改善されているのは、前半の終り際で上手へ入る時、眠れる維茂を上から見込むように、顔を斜に下に振って極まる件で、爰にもう鬼の正体を顕し、大股を踏み上げる女の形は、誠に不快であったのですが、此頃の鬼姫様は、足を割っても小股か或は裏向きですから、此の難は先アなくなりました。それからもう一つは、幕切に松の樹に上って、鬼が火を吹く科ですが、以前は西洋手品の方で珍しがられていたケレンだけに、一寸御愛嬌に取入れられたのを、お若輩非芸術的と理屈が難しくなって、これ亦近年はお廃止になりました。

維茂は、先代左団次に宛われた役なので、初めには綺麗で立派な武将、後ジテを相手に

しては、勇氣凜然たる武将であれば好いのですが、五代目菊五郎が、江戸前のキリリと締まった、而して形の好い維茂を見せて大評判を取って以来、左団次のようなのは、初めから鬼を退治に来た人、菊五郎の如く最初は唯紅葉狩に来た風流の武将と見えなければ、本当の維茂でないと云う、優美偏重論が流行り出し、遂に此節に至っては、武将だか公卿だか分明ならざる風流才子を以て、此の役の本質とする事に間違われてしましました。が、それはそれ、五代目の「アラ浅ましやわれながら」の件の言い廻し、顔の表情、それから幕切に太刀を突き付けて、斜に鬼女を見上げた形、爰等は真に筆にも口にも言い現せぬ結構さでした。今度の羽左衛門は何うした事か、謡曲の本文通りの右の台詞を改めて、『アア過ったり』と云っているのは引立ちません。後半鬼との立廻りになりグルグル廻った末に飛上がり、両足を前へ投出して、「ギバ」に落ちる科は、役者が皆な利口になった此頃、正直に演る優は殆どなくなりました。演らざるにあらず演れざる世のもありましようが、兎に角下手をして亀尾骨を突き上げると気絶もしかねない難い仕事ですからな。

今度の菊五郎の山神が、書卸しの芝翫に倣って、白髪で、而して割合に落着いた振で演っているのは本筋ですが、後年子役上りで勤まるような踊にしたのが、今の若い看客の眼に馴れているのでは、食い足りないという評の出るのも一応道理です。但し、病後の梅幸初め一同の今度の舞台が、ダレているのも事実です。

●青年五人歌舞伎 紅葉狩〔昭和12年10月新宿第一劇場〕

小谷清楓

〈出典：「演芸画報」昭和12年11月号〉

第四「紅葉狩」は季節向の出し物です。然し肝心の更科姫が訥升欠勤で鶴之助に変わりました。若いから綺麗で、踊手だけに代役とは云え立派に出し物にして居ましたが、維茂を見込んでの凄味から、早間の一転するあたりの味や、後シテになつての変化飛などは女優のようです。勘弥の維茂は髭無しの優美な骨柄、羽左衛門型の颯爽たる風采が水の垂れるよう。幕張へ駆込む所は形を整えるだけで気魄が欠けて居るため、勇氣凜々と行きません。段四郎の山神は猿之助型の白髪老人でなく、若い山神で楽々と好い心持そうに踊りました。従者二人、鶴蔵は確りして居ます。花助の方は昔の男女蔵米吉などもあの程度だったでしょう。義太夫は巖、琴路メートルを上げ、常磐津は節太夫頑張り長唄は大薩摩で造作付の曲弾きが鮮か。青年歌舞伎だけに活気横溢であります。

●寄木豪華版〈摘録〉〔昭和14年10月歌舞伎座〕

本山荻舟

〈出典：「演芸画報」昭和14年11月号〉

中幕が今度は新歌舞伎十八番揃いで、上が吉右衛門の『伊勢三郎』（中略）下は菊五郎の『紅葉狩』で、これが豪華版の中心であるが、それだけに物言わぬと腹が膨る。一人一人についていえば、羽左衛門の維茂優美の行装、絵に見るような男振、それだけで前半を凌ぎて行くに足るが、『いで正体を見届けくれん』とキツとなってからが、年に勝てないのは是非がない。体ばかりでなく気魄もである。佩剣小烏丸の霊威も、ホンのお座なりに動いているだけで、一向威徳らしさは受取れなかった。高麗蔵の右源太が、東宝からの帰り新参というので、神妙につとめたのに対し、三津五郎が左源太を付合せて、これを引立てたのも美談種なら、幸四郎が終り初物という山神で、悻孝行の好々爺振りを見せたのも人柄を思わせる景物だが、舞台の芸術としては、そんなことは無論第二義的だ。老山神が凝り過ぎて、却って年の衰えを示したのは、一種の悲惨でもあり、当人としては大きな損だ。

そこでシテの菊五郎だが、更科姫の間、豊満な肉体に、艶冶な姿態、堪能の振事をたっぷりと見せるのであれば、観客は当然満足すべきであるが、何となく気乗薄に見えたのはなぜか。時蔵・多賀之丞の局を始め、家橘・高助・又五郎・廣太郎・太郎・栄三郎・たかし等、若手曹司・子役大勢の侍女を従えて、適宜に踊らせねばならぬことが、当人の気持ちも散漫にする故もあろう。また持前の性癖として、ただの上臈ではなく、実は鬼女という肚があつて、前シテの間から、一抹の物凄味を帯びて居なくてはならぬという、理攻めの考えがなかったとも限らぬ。『こうれ』という男声で、初めて救われたようにさえ見えた。

ここで偶と思い出したのは、故人竹の舎主人の批評に、たとえ鬼神にしろ、鬼女とある以上女性の筈だ、人間の男声にならずとも、とあつたことで、常磐津の正本に『アこれ』とあるのも、同じ意味であることはわかる。必ずしも菊五郎にいうわけではないが、これは一寸研究してもよさそうに思われる。後シテの菊五郎が、期待したほどでなく、案外簡単に済ませた、いつもの気魄が現われなかったのも、これは多分に維茂に対する、心遣いの結果として、善意に解釈すべきであろう。所詮菊五郎は一人で踊らせるに限る。